

## 57 就労を目指す身体障害者のSOC(首尾一貫感覚)と健康習慣の関連要因

自立支援局 総合相談支援部 医務課 矢田部あつ子 鈴木豊子

【はじめに】障害者の健康支援は、個々の背景や社会環境が、生活習慣や健康管理に影響していると感じられる場面が多く、行動変容の難しさを実感している。Antonovsky はストレス対処能力概念である首尾一貫感覚(Sense of Coherence:以下 SOC) を提唱している(1979)。SOC は生活習慣に影響するとされ、「SOC スケール」にて測定可能であることから、本研究では社会的自立を目指す障害者を対象に SOC を測定し、健康習慣との関連について検証した。

【目的】SOC と健康習慣との関連を明らかにすることで、障害者の健康支援のための示唆を得る。

【対象者】就労移行支援利用中の肢体不自由者及び視覚障害者 61 名(精神手帳所持者は除く)。

【データの収集方法】2種類の質問紙による面接聞き取り調査を実施した。1)短縮版 SOC スケール日本語版(13項目7件法、各項目1~7点最高91点)。2)自作質問紙(内容:健康日本21(第二次)の目標である生活習慣の質問、及びSOCの関連要因である社会的背景、心理的因子、心理社会的因子をもとに作成した質問21項目)を用いた。(調査期間 H29年8月~H30年9月)

【分析方法】SOC 得点の中央値を基準に、得点が高い群と低い群に分類し、自作質問紙の結果を比較した(Mann-WhitneyU 検定)。その結果、有意差が認められた要因について2項ロジスティック回帰分析を行い、SOC の関連要因を検証した。分析には統計解析ソフト SPSS Version24.0 を用い、有意水準は5%とした。本研究は、当センター倫理委員会の承認を得て実施した(30-34)。

【結果】1)対象者の障害別分類は肢体不自由者34名、視覚障害者27名であった。2)SOC 得点の中央値は59点であった。SOC 得点の高い群には、「入所期間1年未満」「毎日を動かすよう意識している」「気分転換の時間を持っている」「自分は健康である」が関連していた。SOC 得点の低い群には、「体調不良で外出できないことがある」「疲労やストレスで体調不良になることがある」「辛いと感じることがある」「孤独を感じる」と関連していた。

【考察】SOC の高い群には、入所期間、健康習慣(活動・休養)、主観的健康感が関連し、SOC の低い群には心理社会的因子が関連していた。SOC の概念では、SOC が高い状態は「今後の生活の見通しが立ち、支援体制が機能した状態で、日々やりがいや生きる意味を感じられる」と解釈できる。施設での生活は、活動環境が整備されており、仲間同士の交流の場でもあることがSOC の高さに影響していると思われる。社会環境の整備や生活の質を高める支援が、地域での生活の場においても整っていることが、障害者のSOC や主観的健康感の維持や向上につながると考える。

一方で、入所期間が長引くと目標を見失いがちになることや、抑鬱傾向がSOC の低さに影響すると考える。支援者は、利用者の体調不良や孤独などに早期に気づき、参加を促すための関わりを検討する必要がある。目標を明確にすることや参加を促す支援には、福祉・看護・医療等の支援者間の情報共有と連携による支援体制の強化が必要であり、SOC の向上につながると考える。

【まとめ】障害者の健康支援には、社会環境の整備とともに、他職種連携による支援が欠かせず、支援を継続することが、SOC を強化し健康習慣の確立につながることを確認した。